

シルバーとよなか

# ふれあい

頌  
春

1999年1月

社団法人 豊中市シルバー人材センター

No.28



## 新春を迎えて



理事長

宮崎 英二郎

新年あけましておめでとございます。

皆様方には、平成11年の新春を穏やかに迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年は、当センターの事業運営にご理解とご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

さて、当センターは高齢者の



豊中市長  
一色 貞輝

明けましておめでとございます。

皆様には、輝かしい新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

また平素は豊中市政の推進に格

豊かな経験や能力を生かし、臨時的、短期的な就業を通じて、自らの生きがいを高め、活力ある地域社会づくりに貢献することを目的に、昭和56年6月に設置され、本年度で18年目を迎えることになりました。

ご承知のとおり、わが国の65歳以上の高齢者は、すでに二、〇〇〇万人を超え、総人口の16%近くを占める超高齢化社会が現実のものとなつてきているところです。このような社会背景からもうかがえますように、高齢者のライフプランが大きな社会的課題となるとともに、その一環としてのシルバー人材センターの役割も今後ますます重要性を増すのではないかと実感しております。

別のご理解とご協力を賜りまして、厚くお礼申し上げます。

市長に就任して初めて迎える新年にあたり身も心も引き締まる思いで一杯です。

昨今のわが国経済は、金融不安や雇用不安を背景に、景気が長期にわたり低迷し、地域経済や市民生活に深刻な影響を及ぼしてまい

ます。本市をとりまく行財政環境も大変厳しく、地方分権の推進や介護保険をはじめ、福祉・医療の問題、深刻化する環境問題等、多くの重要課題が山積しています。

昨年豊中市は、服部老人デイサ

一方、わが国の経済に目を移しますと、依然として景気は低迷し企業の構造調整は一段と進むとともに雇用情勢はさらに厳しさを増すものと予測されています。

さらに、国及び地方公共団体の財政悪化や行政改革の推進にともない、センターに対する支援の在り方も大きく変わりつつあります。これらの影響を受け、対前年比10%増と伸びてまいりましたが、当センターの事業実績も今年度は5%増程度に止まるのではないかと思われます。

先行き不透明な社会経済情勢のもと、私ども役員一同厳しい状況認識と危機感にたつて、平成10年度をセンター改革の第一歩として様々な取組を進めています。す

ービスセンターや服部図書館などの建設をはじめ、全中学校へのコンピュータ導入や乳幼児保育などの施策を充実することができ、また、行財政改革の実施計画を策定し、その実現に着手いたしました。

本年は、女性総合センター、中部温水プール、高川老人デイサービスセンターなどの建設を進めるとともに、子育て支援のための「豊中子ども総合計画」や「地球環境を守る豊中市民行動計画」の策定、ダイオキシン問題やゴミの減量等の環境対策の推進、大阪国際空港の活性化など、少子・高齢化、国際化、情報化などに対応しながら

でのご承知のとおり、会員アンケート調査の実施をはじめとし、①社団法人として会員の自主性・自立性を高めるため会員の参画を図る。②センターの財政面での自立性を高めるための積極的な就業開拓の推進を図る。③受注、就業紹介の即応性を高めるため弾力的な事務局体制の整備と運営の効率化を図る。これらを焦眉の急を要する課題として、現在、具体化に向け努力しているところでありますので、皆様方には今まで以上のご協力をお願い申し上げます。

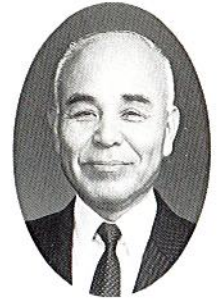
最後になりましたが、本年が皆様方にとりまして、よりよい年となりますようお願い申し上げます。私の新年のご挨拶といたします。

まちづくりに全力で取り組んでまいります。

今日、財政の再建、健全化は私に課せられた使命であり、これらを一日も早く達成するとともに、市民の皆さんと「協働」し、安全で安心して暮らせる「二十一世紀にはばたく豊中」のまちづくりを推進してまいります。

今年も一層のご支援とご鞭撻をお願い申し上げますと共に、新しい年がシルバー人材センター並びに会員の皆様方にとりまして素晴らしい年となりますようお願い致します。





豊中市議会議長

前川 勤治

明けましておめでとございま
す。市民の皆様方には、健やかに新
春をお迎えのことと心からお慶び
申し上げます。
旧年中は、市政各般ならびに市
議会活動に対し、あたたかいご理

解とご協力を賜り厚くお礼申し上
げます。

さて、ご承知のとおり、わが国
の景気は長期にわたり低迷してお
りますが、昨年12月の政府の月例
報告では、微妙な変化がうかがえ
るとの見解もだされ、景気の底づ
ち感になったともいわれておりま
す。しかし現状では、雇用不安や
金融機関の貸し渋りなど、深刻か
つ厳しい経済状況が続いておりま
す。また、わが国は、西暦二〇二
〇年頃には人口の4人に1人が65
歳以上となる「超高齢社会」にな
ると予想されており、企業にとつ
ても、一段と進む少子・高齢化に
伴って若い労働力の確保がむずか

しくなり、多様な産業構造の中で、
質の高い労働力を確保する必要が
出てきております。

このような中、シルバー人材セ
ンターにおかれましては、高齢者
の雇用対策を通して、社会参加と
生きがいづくりを図るべく、積極
的な活動を展開していただいてお
り、誠に心強く感じますとともに、
皆様方のご尽力に対しまして、心
から敬意を表し、感謝を申し上げ
る次第でございます。
地方自治体におきましては、限
られた財源のなかで、時代の変化
と多様化する市民のニーズ的確
に対応していくため、努力を重ね
ていくところであります。

本年は、統一地方選挙の年であ
ります。私も市議会議員の任期
も、余すところわずかとなりまし
たが、市民の皆様への信託に応え、
豊中市が21世紀に向けてより活力
あるまちとして飛躍発展するよう、
一層の努力を傾注してまいり所存
でございますので、皆様方におか
れまして、ご理解とご協力を賜
りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、社団法人
豊中市シルバー人材センターのさ
らなるご発展と、本年も皆様方に
とりまして、ご健康で幸多い年で
ありますよう祈念申し上げます。
年頭のご挨拶といたします。

あけまして

おめでとう

いねいごまね

理事長 宮 英二郎
副理事長 水 上 利 夫
常務理事 中 川 善 博
理事 山 路 政 博
理事 織 田 照 子
理事 林 田 泰 野
理事 藤 田 泰 通
理事 上 田 善 治
理事 吉 川 武 郎
理事 宇 都 宮 義 典

理事 藤 井 健 二
理事 藤 本 哲 夫
理事 徳 永 美 恵 子
理事 岡 本 宗 五 男
理事 飯 野 敏 一 雄
理事 出 嶋 慎 己
理事 小 磯 克 己
理事 古 市 垣 義 男
監事 小 森 秋 男

地域班役員

第一班 ※ 青木 大 吉
第二班 ※ 西川 木 田
第三班 ※ 金子 三 秀
第四班 ※ 三富 裕 吉
第五班 ※ 田中 義 郎

第六班 ※

第六班 ※ 宇都宮 義典
第七班 ※ 森野 義磨
第八班 ※ 佐藤 山 野
第九班 ※ 赤松 義 磨
第十班 ※ 小 嶋 慎 己
第十一班 ※ 古 市 垣 義 男

第十二班 ※

第十二班 ※ 日 本 門 下
第十三班 ※ 高 橋 元 正
第十四班 ※ 山 崎 清 信
第十五班 ※ 石 橋 幸 夫
第十六班 ※ 岡 本 宗 五 男
第十七班 ※ 前 大 吉 弘
第十八班 ※ 竹 内 秋 水



# センター だより

経済環境の厳しさの中で迎えた新しい年は、回復が見込めない景気の動向から、センターにとつて運営面で多難な年になりそうです。昨年来、「事務局だより」や「ふれあい」また、職群毎の集りや各委員会等の色々な場を通してセンターの現状や直面している課題を明らかにするよう努めてまいりました。御承知の通り、長引く景気の低迷から仕事の増加は期待出来ず、センターの運営に対する国等の補助金削減が追い打ちをかけるなど、ぜい弱な運営体質を直撃しています。当センターの過去五年の状況をみますと、阪神淡路大震災当時の一・二年を除き、概ね一〇%の伸びをみてきた契約高も、本年度

は小中な伸びに止まる見込みです。又、センター全体の収支では、平成六・七・九年の各年度では、単年度収支が赤字となり繰越金で収支差を埋めている状態で、この単年度収支の改善を急ぐ必要があります。さらに、センターの運営や経済変動に対する各種の積立金等の備えが無いため財務体質に課題を抱えています。このため経費の節減を図る一方、事業実績を伸ばすことで事務費の増収を確保しなければなりません。理事会では就業開拓に積極的に取り組むとともに事業のあり方や運営面の見直しにとりかかっています。特に、資金面で現在の借入による運営を改めるため、運営資金の積み立てに努めると同時に配分金支払日の見直し、収支のバランスを欠く事業の改善、民間企業と競合する分野での就業形態の在り方、諸経費の負担方法や増収策の検討、景気変動等に対応するための積立金の確保など、新年度にむけ検討を進めています。

会員の皆さんも仕事の確実、丁寧な仕上げはもとより、就業報告の提出期日の厳守、就業開拓用パンフレットの配付等に協力いただくとともにセンターに対する建設的な提言、提案を得て活力あるセンターを築いて行きたいと思えます。

理事会では、本年度から部会の役割を明確にして活発に動く一方、

平成十三年(二〇〇一年)にはセンター設立二〇周年を迎えるため、「設立二〇周年記念事業検討委員会」を七月からスタートさせました。また、「理事監事選考委員会」(織田照子 出嶋慎一 伊木年数 宮崎三雄 野口高茂)、「安全就業委員会」(吉川武三郎 藤本哲夫 林 泰野 谷口正春 天羽 茂 吉岡 弘 石橋 博)が理事会の承認を得て、十一月一日付で委嘱されました。こうした部会、委員会の状況を報告します。

○総務・広報部会(山路部会長 他四理事)

シルバーの資金運営の状況や運営実態の分析に取り組みとともに会員の意識や実状、就業に関わる問題等を明らかにするため、全会員を対象とするアンケートを実施。予想を越え、対象者数一、四〇九に対し、九〇二(六四%)の回答を得て嬉しい悲鳴をあげています。集計結果は随時ご紹介して行く予定です。

○就業開拓部会(徳永部会長 他四理事)

新しく就業開拓用パンフレットやグッズを作成し、十・十一月を中心に市内の企業、団体、学校、官公署等を集中訪問しました。直接訪問したり依頼した事業所等は、約一五〇、訪問先等の関係する団体の構成事業所等二六〇〇に対しパンフレットの配付をお願いしま

した。厳しい経済環境に加えセンターの事業と競合する業者との価格競争を強いられる現実を実感するとともに、確実、丁寧な仕事により成果をあげる必要性を改めて痛感しています。

○福利・厚生部会(宇都宮部会長 他二理事)

日帰りバスツアーは、みかん狩りをテーマにツーリスト各社によるコンペ方式で「日生」を決定。十一月二日、百十三名の参加を得て実施しました。今回から参加者アンケートを行い、今後の計画等に生かす事としています。又、一泊ツアーは、「温泉」をテーマに、三月十八・十九日、「下呂」に決定しました。

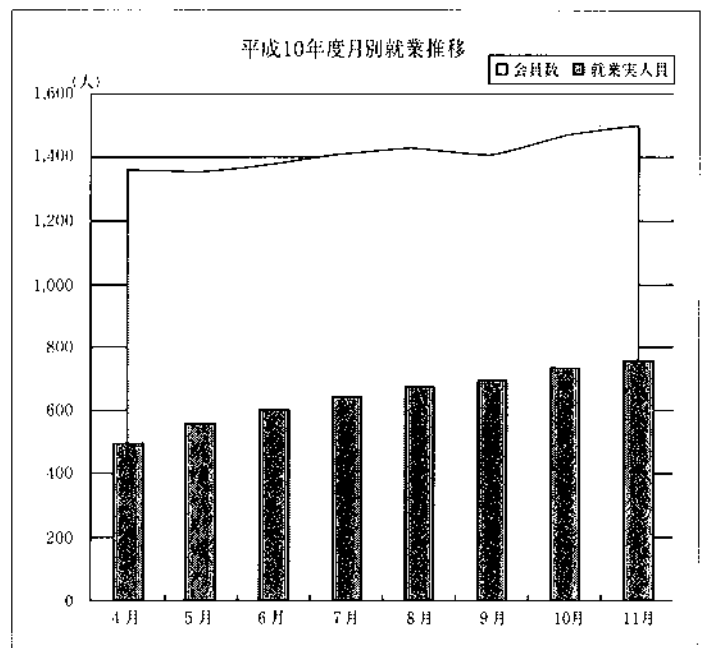
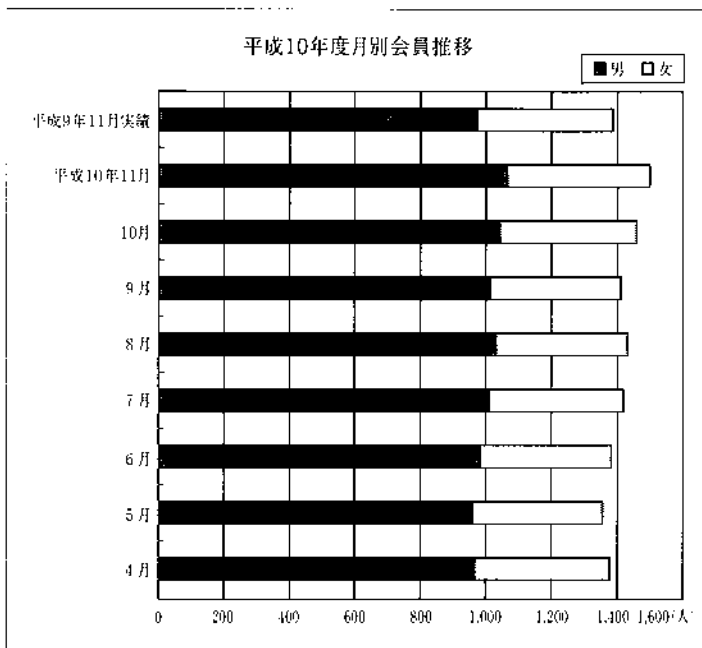
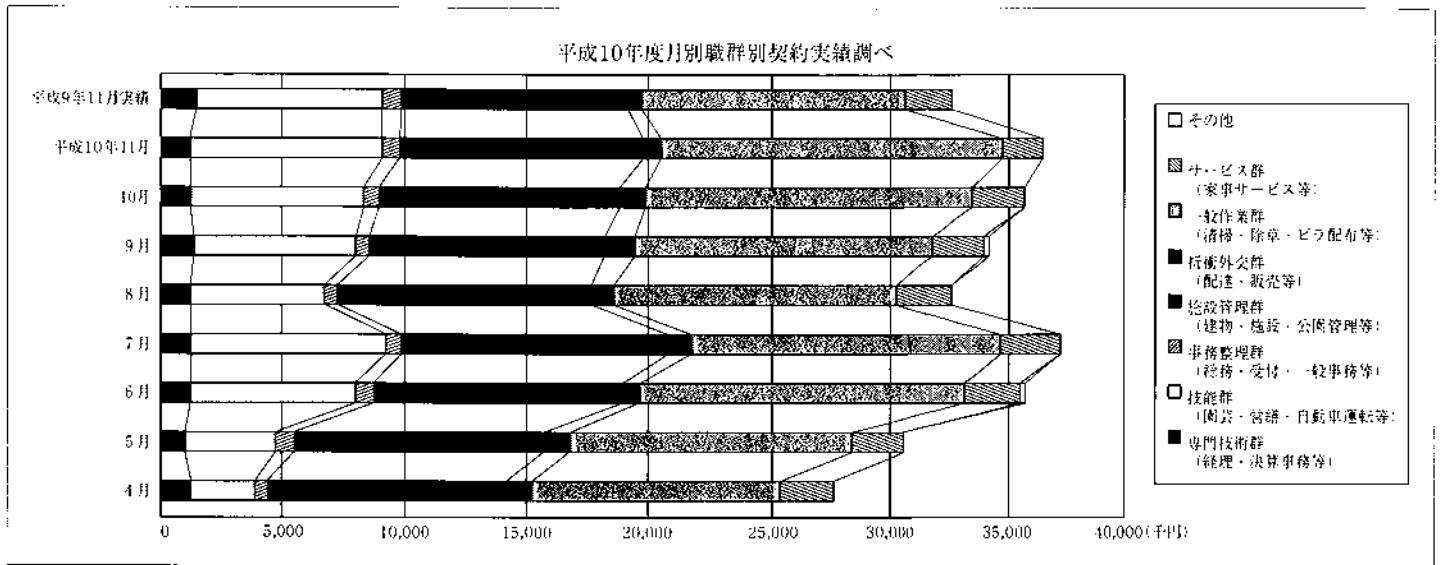
○設立二〇周年記念事業検討委員会(藤田委員長 他五委員)

七月七日に、第一回委員会を開き、以来二カ月毎に集まり記念事業全体の検討を行っています。記念誌を発行するため、そのあり方や、資料、写真等の収集に取り組んでいます。古い資料、写真を提供して下さい。

○安全就業委員会(藤本委員長 他六委員)

十一月一日から二年間、センターの安全就業を推進する役割を荷います。十一月九日に第一回委員会を開催し、あわせて園芸、除草等屋外作業現場の安全パトロールを実施し、今後の安全就業のあり方について協議しました。

図でみるセンターの状況



同好会活動予定

★ハイキング同好会

一月の例会を次のとおり、実施します。  
妙見山奥の院コース(約10km)

日 時 二月十三日(土)  
午前八時三〇分

集合場所 阪急川西能勢口駅

持ち物 エスカレーター下付近

その他 お弁当、お茶等

雨天の場合は二十日(土)に順延  
します。

連絡先 ハイキング同好会代表

山路会員(6844-1443)

★書道同好会

日 時 二月八日、二十一日(月)

場 所 午前十時から

連絡先 市北別館二〇四号室

連絡先 書道同好会同好会代表

古市会員(6849-4127)

★囲碁・将棋同好会

日 時 毎週金曜日 午後一時から

場 所 センター会議室

連絡先 囲碁同好会代表

國本会員(6852-9999)

★T・シルバートラブル会

春の日帰りバスツアーを四月に実施しま  
す。旅行に興味のある会員さんは役員まで  
ご連絡ください。

連絡先 上田会員(6855-0167)

山田会員(6808-1778)

滝上会員(6853-4086)

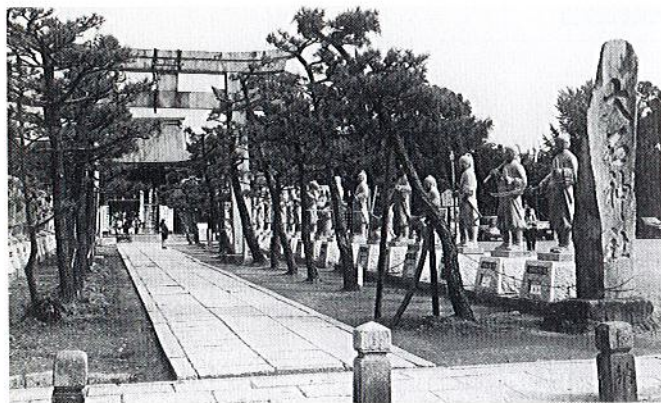


楽しかったバスツアー（11月2日）  
 日生の「みかん狩り」と  
 大石神社を訪ねて

十一月二日は、待ちに待った楽しいみかん狩りのバスツアー。どうぞ雨が降りませんようにと祈った甲斐があつてか、暑くも寒くもない薄曇りだった。市役所前を午前八時出発というのに、七時四十五分にはほぼ全員集合。皆楽しみにしておられたのでしよう。バスは三台揃って定刻に職員のみなさんに見送られて出発。車内は、ご挨拶に続きコースの説明の後でお菓子や飲物のサービス。いつものことながら職員の方々の優しさに感謝。子供の頃の遠足の時のように浮きうき。顔馴染みの方や古いお知りあいの方との出会い。和やかな中をバスは中国山陽道を一路紅葉にはまだ少し早い景色を車窓に眺めている間に赤穂着。

◎赤穂城、大石神社見物

先ず大石神社へ。家老大石内蔵助の屋敷跡とお話でしたが、その広大さに驚かされました。義士の石像やのぼりの立並ぶ中を通つて奥へ。そこで記念写真をとって、各自思いおもいに見学しました。大石内蔵助の立像や義士宝物殿、



義士木像奉安殿、庭園、長屋門等。義士宝物殿では、四十七士の討入関係の遺品や城の請取等の史料。義士木像奉安殿には、当代一流の先生方が制作された四十七士の木像が奉安してありました。お名前や年令、とくに若い人の年を見て第二次大戦にて特攻隊員として散つていった若い方々を思い浮かべ



ました。ご主君のため、大君のため、国のため若い命を散らしたことも昔の事。平和な今日、何故毎日のようにいやなこと、暗いニュースばかりなのか。憂鬱な気分がよぎり、楽しい旅が少し気が沈んでしまいました。バスが昼食場所の呑海楼に着き、次々に出されるご馳走を賞味しました。お腹もいっぱい、まわりの美しい景観に見とれている内に、先程の嫌な気分も吹き飛んでしまいました。名物の大岩風呂に入れなかつたのが少々残念でした。

◎みかん狩り

遊覧船に乗り、穏やかな海、白い波、周りの沢山の島々を眺めて



日生の景観をたのしみました。いよいよみかん山へ。お天気もよくなり温かい日射を浴びながら少し登ると、そこはみかん園。黄







色いみかんが地に着く程鈴なり。余りの見事さに、あつと息をのむ程の光景でした。早速食べる人、取る人、奥の方へ行く人、あちこちに散らばって楽しいみかん狩りが始まりました。

もう随分前になりますが、一度みかん狩りに行ったことがありません。もう一度みかん狩りに行きたいなあと、みかんを食べる度に思っていました。念願が叶ってこの度のバスツアー。何が何でも行きたいと思っていました。実は九月一日に循環器病センターへ入院し、心臓の手術をしました。少し心配でしたが、お陰様で順調に回復。十月二十六日の診察でお許しが出て、本当に嬉しうございました。でも皆様にご迷惑をかけてはと、旅行の二、三日前からバスで桃山



台、千里中央、箕面、梅田と色々乗ってみました。異常ありませんでした。子供達もシルバーの旅行なら安心だと喜んで出してくれました。

見るみるうちに、袋一杯になり、山から下りてみかんを食べました。ほんとうのみかんの味でした。もぎたての匂い、甘い味、何とも言えない幸せを感じました。

みかん山を後に、船や、バスに乗り満足感を噛みしめながら楽しい秋の一日を過ごし、少し暗くなりかけた豊中へ帰りました。

また次の旅行をたのしみに家路につきました。

このような楽しいバスツアーを企画し、お世話頂きました皆様、本当にありがとうございます。

みかん狩り 年も忘れし  
ひと日かな

### 会員一泊バスツアー 参加者募集

平成十一年三月十八日(木)から十九日(金)にかけて、下呂温泉で一泊するバスツアーの参加者を募集します。飛騨の里を訪ね、どこまでも続くパノラマサイズの豊かな自然とこころ和む風情を楽しんでください。なお、体調に不安のある会員さんはご遠慮下さい。受付は、平成十一年二月一日(月)、午前九時から二月二十六日(月)午後5時まで、

電話 6856-1177

FAX 6856-2859

で申し込んでください。募集人員の九十名をオーバーした場合は、抽選等により、決定します。旅行の行程は、雨天等により、観光地等の変更があります。会員負担は、一人一万五千円です。

一日目 豊中市役所(午前8時出発)・かがみはら航空宇宙博物館・美濃(昼食場所)・飛水峡・白川茶七宗御殿・水明館(下呂温泉・午後四時頃到着予定)

二日目 水明館(午前八時三十分出発)・飛騨石センター・飛騨古川散策・銀河高原ビル・飛騨高山工場(昼食)・明宝八丁工場・桜塚高校西側(午後6時頃到着予定)



どうなる卯の歳?



第五班  
阪口 充男

「倒」の字で象徴された一九九七年、一九九八年は「壊」とも囁かれています。

暗い話ばかりなので、何か景気づけに明るい話を初夢として語りたいと思う。

振り返って見れば、一九九八年は「虎(寅)の歳」、世の人々は猛勇果敢で万事開けると期待したが、世の中そつ甘くなく阪神タイガース同様で幕を閉じる結果となりそつだ。

しかし、阪神タイガースは過去の因習に拘わらず前ヤクルト監督の野村克也氏を監督に迎え、一致団結知力技法の全開野球で飛躍前進を期す意気込みである。

さて、世の中は不景気の風一層厳しく、どう抜け出すかと試行錯誤の連続で明け暮れた。

一九九九年は二〇〇〇年にかけていよいよ二〇世紀末への年に入る。

世紀末と言つ言葉があるが、どうも懐疑的、絶望的な表現に使われ、あまり歓迎される言葉でないが避けようにも避けられない現実である。

年号も不景気も人の好みで左右できるものではないが、せめて阪神タイガースのように明るい夢を持つて小淵さん先頭に宮沢さんも頑張つて皆んなで突破したいものだ。さあ、そこでまた千支の話に戻るが、「虎(寅)」の次は「兔(卯)の歳」である。

兎と月の話しは中国の古典にもあり愉快で面白いことだが、古来から兎は狡猾な動物とみられ損な立場にある。

兎の名譽と幸先のよい話があるので述べておこう。

白兎は瑞兆と称せられていることである。

瑞兆の瑞の「耑」は、水分を得て植物が大地に根を張り発芽した形を表したとの説はまことに頼もしい限りである。

とすると、兎年は枯渇した土壤(社会情勢)に水(活力)を得、根を張り芽を出しはじめる年となるであろうことを望みたい。

そして、やがて象徴されるであろう字も「興」とか「活」など勢いのあるものを願い、希望に満ちた年に成ることを期待しよう。

新しい年を私たちは  
元気に明るく暮らそう



第九班  
野口 高茂

去年は、バブルの後始末に日本中が振り回されてしまった。即ち五年間モタモタしている間に、不良債権の利息がふくれあがり、銀行の健全化に「兆」という天文学的数字の税金を注がねばならなくなった。アメリカは、ヘッジファンド損失の対策を五日間で決定してしまった。政党のことは論ずるが、国家の最も基本の政治のシステムについては誰も言わない。またマツカーサーは、五十年前に日本人は十二歳といったが、政治的な意識は今も全く変わらない。未熟な国民が選んだ政治家だから、あきらめるより仕方がない、とあきらめつつも、金まみれ、悪い人間がぞろぞろ、青少年の非行等々世紀末ような世の中になってしまった。「貧すれば貪す」とよく言っただものである。

私たちが、終戦後食べるものもない時代から、ひたすら働きに働いて繁栄の基礎を築いてきたのに、。憤りを覚ゆ。また、老人はもう面倒見切れません。金がない、

金がないと言われれば、長生きをしていることが迷惑がられているような気になる。悲しい！ヨーロッパの国々と福祉に対する考え方が全く違う。

さあ、今年からは、頭を切りかえて、明るく生きることにしましょう。腰の曲がった老人が赤鉢巻を巻いてデモしてる夢を見た。病氣、景氣、人氣、空氣、天氣から根氣、氣性、氣力「氣」とは目に見えない力、こころを表わす不景氣の悪循環に陥り、消費不況もわずかな減税という雰囲気でもマ化そうとする。もつとしっかりと政策で勝負しなければならぬのだが。

私たちは、裸一貫から生きてきた。抵抗力は強い。そして「心」の時代を知っている。貧しい時も家族みんな心を合わせ、助け合つて生きてきた。そんな体験の中で、良い人、やさしい人とが、教養のある人、人格者を人間の価値観として生きてきた。具体的には、「感じのいい人」のことである。

毎日電車に乗って道修町に通っている。半分は歩くという健康のため、あとの半分は、色々な人を見て「人のふり見て、わがふり直せ」である。座っているとこぼすと足許に目がゆく、大きく股をあけている男、女の人も大同小異。どの顔もトゲトゲしい。如何にも人の良さそうな顔の人を見るとホツとする。滅多にない。



それに引きかえ、あれこれボラ  
ンティアでお世話させてもらって  
いると、『いい感じの人』が、とて  
も多い。良く考えて見れば、一銭  
の得にもならんことをやってる人  
達だから、当たり前かも知れない。  
でも全部が全部でもない。感じの  
良い人」と逢うのが楽しみで、や  
っているのかも知れない。

何はともあれ、めぐりくる新し  
い年を、私たちだけでも心豊かに  
元気に、明るく生きてゆきまし  
う。

### ねねの道



第五班  
藤本 哲夫

秋の長雨も漸くおさまった十月  
の晴れた日に、ねねの道を歩いた。  
吹き過ぎる風は涼しげで、どこか  
らか虫の声も聞こえてくる。

円山公園から南に向かうと、大  
きな石畳の敷かれた道に出る。京  
都市が今年三月に整備したばかり  
の『ねねの道』だ。美しい石畳、  
両脇には寺々の土塀が続ぎ、とこ  
ろどころ茶店や土産物の店が並ぶ。  
どの店も真新しい『ねねの道』と  
書いた提灯を門口に吊して、通り

はひとときわ風情がある。

この道は、縦六十糎、横二〇  
糎の大きな石を横ならびに敷き詰  
めた石畳道、その感触が足に心地  
よく伝わってくる。電柱はすべて  
地中に埋められて八坂の塔の美し  
い姿がすつきりと望まれる。

「ねね」は、天下人豊臣秀吉の  
正室・北政所のこと。『ねねの道』  
は彼女が、秀吉の菩提を弔うため  
に、この地に建立した禅寺・高台  
寺にちなんだ散策路である。道の  
行き着く先はその高台寺である。

キンモクセイの香りのする石畳  
を散策していると、つい時を忘れ  
てしまう。日が暮れると料亭の灯  
が一つまたひとつともり始め、  
ここほど古都のたたずまいに浸る  
ことができる場所は他にない。

青天に秋の蝶舞ふねねの道  
新涼の風に吹かれてねねの道  
秋の蝶すぐ合掌に翹たたむ  
木犀の花あつく敷く石畳  
庚申堂涼しき土間に土産売る

### 台風に会って



第十三班  
原田 天豊

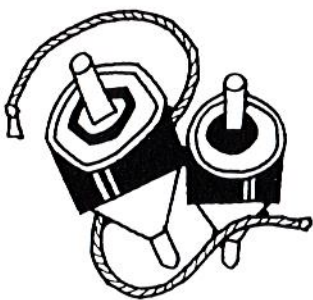
体に変調が出てから十ヶ月にな

る。本当に苦しい日常生活でした。  
前立腺肥大も順調に回復し、昔な  
がらの生活に戻りましたが、再発  
の危機はなくなつたわけではあり  
ません。病院からもらう薬と息子  
が買ってきてくれる薬を飲んで頑  
張っております。薬アレルギーの  
方は、頭の左半分が時々ズキンズ  
キンと痛み、左耳の奥がキリで刺  
すように痛みます。右足のシビシ  
は相変わらずで、右腰の痛みは腰  
が伸ばせない位の鈍痛があり、老  
いばれて来たことを思い知らして  
くれております。

十七日の夜九時頃より台風が大  
雨をもたらして畑のモグラの穴に  
水が入って溝が出来、ピーマン、  
ねぎの枝がメチャクチャに折れ大  
被害を受けました。十八日の早朝  
旭町の娘から電話がかかり、道路  
がなくなつて町に出て行けない、  
水道が壊れて水が出ないし、道路  
の向かいの川にかかっていた橋が  
上流から流れてきたブルやダンブ  
カーのため橋が流れてしまったと  
言つて来た。避難して来た人のい  
る学校は無事だつたが、一晩中警  
戒していた。グラウンドは濁流でメ  
チャクチャになつた。幸い車は高  
い場所に避難してあつたので、無  
事だつた。ホッと安堵したところ、  
二ユーエで亡くなつた人があるこ  
とを知り、暗い気持ちになりました。  
二日後道路は応急処置で通行  
できるようになり、水道も近所に  
地下水の出ている所があつたので、

自分でパイプを設置して何とか不  
自由はなくなつたが、交通の方は  
旭町の学校のスクールバスが遠回  
りして迎えに来るので六時三分  
までにバス停に出ないと置いてゆ  
かれるので早く道路の復旧が望ま  
れます。道路の大切さは不通にな  
つて初めて分かります。日頃から  
災害を想定して色々な状況になつ  
ても解決できるように準備してお  
きたいと思う。もし、豊中で電気、  
水道、ガス、電話がストップし、  
道路が通行不能になつたり、ご飯  
も炊けなくなつたらと。娘からは  
水が出ない、全自動洗濯機がつか  
えない、トイレも風呂も駄目との  
悲鳴。幸い太古からの湧き水です  
べてが解決された。町中がスタス  
タになつたので、町からの応援は  
望めなかつたが、幸い部落の中に  
ブルを持つている人が居て、その  
人達と力を合わせて徹夜の復旧作  
業をし、翌朝には車の通れる道をつ  
けたと聞く。

年の初めには、しみじみと健康  
のありがたさが喜ばれる。皆さん  
も元気でよい年をお過ごし下さい。





# 同好会だより

## ハイキング同好会

六甲丁字が辻一

ダイヤモンド・ポイント一

記念碑台一油コブシ道

阪急六甲駅の改札口を出て皆の出揃うのを待っていたら、「全員揃いました。」と元気な竹端さんの報告で、山路さんの出発の声。

駅のすぐ横から登山バスに乗る。満員客を乗せたバスは急な坂道をスイスイと登って行く。車窓から神戸港を眺めていると、いつの間にか、六甲丁字が辻に着いた。この辺り一帯は大会社、大きな企業の山荘や寮が点在している。それを左右に見ながら自然道に入り、ダイヤモンド・ポイントへ向かう。道の左右をよく見ると、アセビの木とリヨウブの木と熊笹が一面に生え茂っている。

アセビは別名アシミと言って、有毒植物でアシミは悪い実からきたと言われている。馬は食べると中毒して酔ったようになるので馬酔う木の当て字がある。リヨウブの春の若葉は食用にされこれを炊き込んだのが令法飯と呼ばれる。私も復員後、一三回食べたことがあるが、おいしいとは思わなんだ。太い幹は床柱等に使用されている。



十時、ダイヤモンド・ポイントに着く。さすが見晴らしがよく、六甲より北西の方、有馬より西がよく見えた。秋本番がもうそのまま来ていた。

ダイヤモンド・ポイントを後にして自然道を通って記念碑台へ。この道も狭く、上り下りの多い道。一時間かかって記念碑台に着く。

この記念碑台に一人の外国人の碑がある。その碑とはイギリス人で明治元年来日した貿易商で日本人女性と結婚した大の親日家であるアーサー・ヘスケス・グルーム氏。この六甲山を開発した開祖と言われる人である。その碑の前で昼食をとる。ビールがウマイ、も

うパイ。しばし休んで記念写真を撮ってもらおう。また、持ち寄りのオヤツを分けてもらい、子供心になった。しばし休んで出発。

20分ほど自動車道に沿って歩く。ハイキング道、油コブシ道、この道を降りる。道は急な下り坂に急な階段が多い。皆喘ぎあえぎ、また何度か休みながらやつとケーブル下駅の横に、皆さん無事下山することが出来ました。解散。

本日の10月例会を企画、また本日の道案内をしてくださった会員は紀平昌豪会員さんです。

ありがとうございました。参加者27名。一人の費用約千五百円。天気、晴薄曇り。気温25度。道程約8キロ。第五班 小原 仲次郎

### T・シルバーラベル同好会

#### 西の日光の旅

##### 耕三寺を

第一班 山田 英明  
わがT・シルバーラベル会は、楽しく安全にそしてグルメの旅をモットーに、残暑きびしい九月十日、十一日に一泊旅行をした。

定刻八時に市役所前を発車した阪急観光のデラックス・サロンカーで一路第一の目的地、西の日光と称される耕三寺に向って山陽路をひた走る。添乗員さんはもう顔馴染、美人のガイドさんの案内に耳を傾ける人、後部座席のサロン

では差し入れのビールの酔いも手伝って笑い声の絶えることもなく、参加一十二名が和気あいあいと楽しんでる間に、耕三寺に到着した。

車外へ一歩降りると、三十度近く、耕三寺の案内を聞いている間に汗が顔に伝わってくる。余りの暑さに、みんなグツツリで、全コースを廻らずに日陰を求め汗をいれる。やつと来たバスに逃げこむように駆け込む。スタートした車内では、もう夜の宴会の話し。

第一の目的地宮島に近づくに従いガイドさんは、何故、宮島と言うか、宮島の由来に始まり、島は神様の島であるから、妊婦はお産の日が近づくと島から出て行かねばならない、島の中でのお産は駄目との決まりがあるためとガイドさんが言ったら、後部座席から野次がとび、若いガイドさんを困らせる。そんな雰囲気を見せてバスは宮島口へ。船着場から船に乗って十分ほどで宮島へ着く。ホテルからの迎えの二台のバスに分乗して、仲居さんが並んで迎えてくれたホテル「有もと」に着く。各自が部屋に到着した頃を見計って看護婦さんと一緒に会員さんのお顔の確認に回った。これも幹事の大事な仕事の一つである。

午後六時半待望の大宴会の幕はホテルの女将が仲居さんと一緒に挨拶によって開かれた。上田会長が、飲み放題、山海の珍味に舌鼓







想いのたけをふみに託して…

俳 句

第二班 平ノ上 砂子

小春日や古代夢見る石舞台  
助けられ登る石段紅葉映ゆ

(永源寺にて)

小春日やベンチの温み昼下り

風邪気味の夫にすゝめる葛湯かな

新聞を読むでもなしに冬日向

第九班 野口 高茂

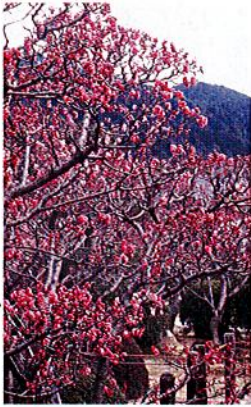
正月も名ばかりとなる我が町は

雑踏へ門松立てる百貨店

初釜に若き和服の増えており

静かなる丘陵の道椿咲く

冬日和窓ガラス見て髪直す



川 柳

第八班 檜垣 一郎

一等が うそでないか 宝くじ

ありがたい 法話の帰途に 金落す

改める 誓ったはずが 午前様

やってみて 妻に感謝の 台所

魔もの出る 九回裏の 甲子園

解説者 自分の過去は 棚に上げ

お供えの 分け前きめる 兄妹

松茸より ハンバーグいい 子供たち

ゆううつを 一掃してくれた レントゲン

あやしいが 予感当たった 擬餌の針

第九班 野口 高茂

一日一日もう逢いたいと思う人

おめでたいことへある日の茶碗酒

かたい絆よ夫婦茶碗の大と小

嬉しい日母には母のうす化粧

風花を抜けて確かな愛ひとつ

囲碁同好会をお尋ねして 第四班 徳永美恵子

バスの中から見る街路樹は、今の季節をゆつくり秋の色に装い、葉がぐれに覗く青い空は、何故か心が落ちつく静かな午後。私は二度目の取材に、千里中央にある建物、老人福祉センターを訪れた。受付でご挨拶を済ませると、会員の織田照子さんが、お待ち兼ねだった。直ぐにスリッパと履き替えると、通された和室は約六十畳。室内には、隙間なき対局の場、一寸圧倒された。静かである。織田さんは、早速中村欣一会長さんをご紹介して下さい。お話によると、会がスタートしたのは、昭和



私は“ふれあい”帽子

五十四年四月、当時の会員数は四十名で、現在は約一五〇名。内、女性が一名、対局は偶数月に行われる。有段者の内訳は、六段四・五名、二段三十五名で、柴原・庄内・原田・千里四地区では、当センターがトップの成績とか。十二日には目出たく、百回の対局記念大会が行われるらしい。次に紅一点女性の田中さんは、碁歴が十年で、ご主人のお勧めとご指導でメキメキ腕を磨き、今ではボケ防止に一番とのこと。黒のワンピースがお似合いのお方、対局のお姿が



見られずに残念。私が取材中にも織田さんは、手を休めずにお茶の入れ替え、灰皿の取り替えそして湯沸し場の出入りと座の間もなお仕事について次のようにお話しして下さい。 「織田さんにこの仕事をお願いしてもう十七年になります。見た目には楽そうに見えるけどなあ、碁盤の間を邪魔せんように、気むずかしい年寄りの連中も居るこんな部屋の中で細かい神経と気配りの仕事です。一言のグチも言わず、何時も穏やかな人です。それに、何よりも口が堅い。会の役員達も安心して織田さんに感謝してますのや」と、ゆつたりした口調と温かい眼差しで、私に微笑んで下さった。私は、「有り難うございませう。同じ仕事の仲間として、とても嬉しいお話しです。お蔭様で今日は良いお仕事が出来ました。お世話になりました」と。二度目の取材が気持ち良く出来て幸せ、と自分に言い聞かせて、碁石の触れ合う快い音を背に、ドアを軽く押した。中村欣一会長さん八十六才、碁歴十五年、囲碁六段、織田照子さんシルバー人材センター福利厚生担当・理事です。